

目的

A L Tとの授業

入院生活を送っていると、異なる文化を持つ人と接する機会がない。しかし、多様な文化や言語への理解を深め、自分と違う人々を理解することは必要である。

実践事例 1 回目

『A L Tさんを知ろう』『英語で挨拶をしよう』『名前を言ってみよう』

A L Tが作ってくれたパワーポイントにでてくる出身地や趣味や食べ物等のたくさんの写真を見て、話を聞いたり、質問を考えたりして楽しんだ。



生徒の様子
 昨年はA L Tの授業がなく、久しぶりにA L Tと授業をした。1回目は緊張してあまり声が出ていなかった。外国に興味を抱く生徒もいた。

実践事例 2 回目

『楽器の言い方を知ろう』『一緒に歌おう』

音楽室にある楽器の英語での言い方を教えてもらった。その後、その楽器をならしながら「If you are happy, clap your hands」を歌った。

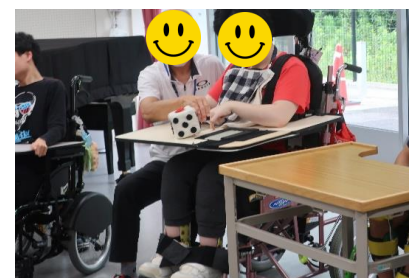


生徒の様子
 再度自己紹介や、ハイタッチをしてもらっているうちに、和んできた。
 生徒は音楽が大好きなので、楽器をならして歌を歌うことで前回よりも随分和んだ雰囲気です授業を受けていた。



実践事例 3 回目

A L Tのゲーム
 ジェスチャーをつけながら、英語の歌を歌った。Up,downの使い方を覚えることができた。



生徒の様子
 積極的に手を上げて、自分からという意志を出す生徒が出てきた。ジェスチャーを使うことで（up,down）英語の使い方を頭の中にイメージして使えるようになった。

実践事例 4 回目

A L Tが用意してくれた「はらぺこあおむし」のゲーム、歌、果物の言い方を英語で教えて貰い、ボールを投げて当たったところのカードに書かれている果物名を英語で言った。ジェスチャーをつけながら英語の歌のさびの所を歌った。



生徒の様子
 生徒は積極的だった。
 A L Tと話したい、近くに来て欲しいという意欲が見られた。
 A L Tとの授業を繰り返すうちに、生徒たちの中に、A L Tが言うことを「わかって」自分のことを「伝えよう」という気持ちが強くなった。音楽やスポーツ、食べ物等の話ができることがたくさんあることに気づき、A L Tとの活動に積極的になっていったと思われる。

今後に向けて

外国人をはじめ異文化を持つ人々を理解し協調していく態度を育てることで、自分とは違う障がいのある人々のことを理解したり、また卒業後違った環境の中でいろいろな人との出会いを受け入れることができる力に発展していくと思います。そのための第一歩になるように、今後も活動を続けていきたい。